

『高齢者の営農を支える「らくらく農法」』

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン 高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発



奈良女子大学・奈良県農業総合センター
三晃精機株式会社・奈良高専

事業の背景

農村の高齢化・コミュニティの10年後問題



農業指導員の発見:

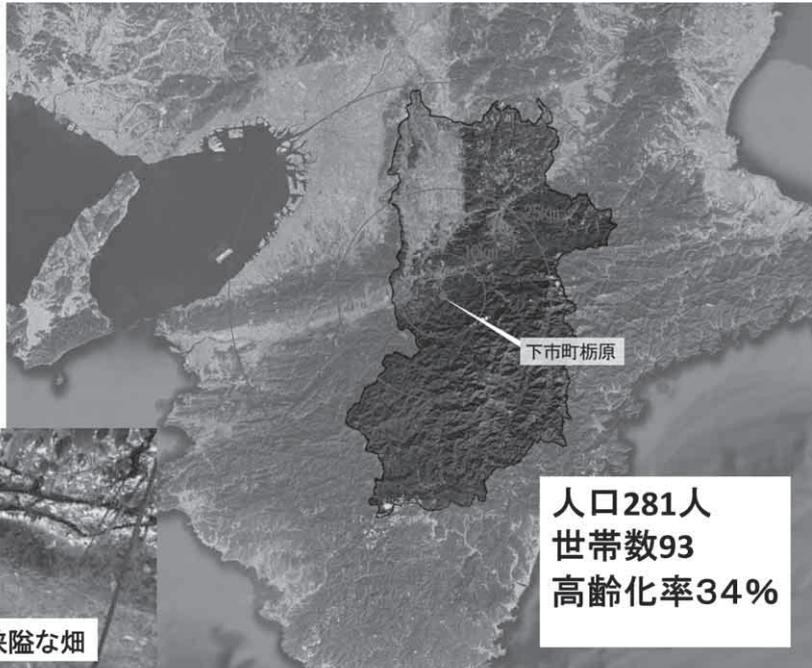
「将来、村に戻って農業をしたい、という人はいる。
しかし彼(女)らの定年帰農まで、親の身体がもたない。」

コミュニティを調査し、
村の高齢農家が少しでも長い間現役を続けられる手段を提供し、
農村コミュニティを高齢者の生きがい豊作地帯にすることによって、帰郷者へのpull要因(らくらく・楽しく・仕事有り)を増やし、農村コミュニティの持続可能性を高める。



奈良女子大学 文学部人文社会学科 准教授 **寺岡 伸悟** てらおか しんご

下市町栢原地区について



急峻で狭隘な畑

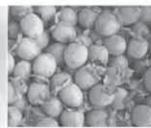
人口281人
世帯数93
高齢化率34%

らくらく栽培グループ



らくらく栽培実証畑

柿の葉寿司、つまもの、クラフト、生け花などで応用



柿渋用果実



女性でもらくらく持てる軽量育苗



柿の里奈良の柿もみじ

他にも様々な特産物を発掘！



シソ



ミヨウガ



サンショ



ウメ

『高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発』

電動運搬車グループ



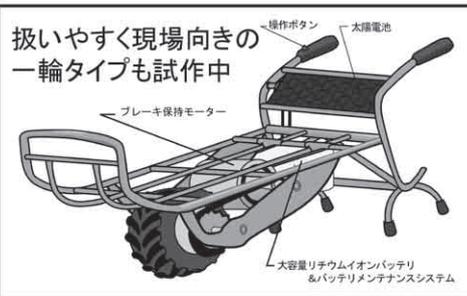
三晃精機(株)試作電動運搬車 Li-200



お年寄りや女性にも
安心・安全操作



ガソリンエンジン車(後)よりコンパクト



PPK-歩行能力測定指導グループ

○農作業強度測定

→らくらく栽培グループとの連携

- ※作業時の心理的疲労と身体的疲労の客観的把握
- ※らくらく栽培導入前後での比較



○高齢者体力情報

→高齢者サポート機器改良グループとの連携

- ※農作業高齢者の体力特性の把握(非農作業者と比較)
- ※サポート機器開発・改良のための体力情報の提供
- ※体力情報をもとにした歩行指導



「暮らしぶり」の調査を実施

- ①日常生活調査・・・活動量計、質問紙、インタビュー
- ②体力測定・・・主に下肢筋力、歩行能力の測定
例) 歩く動作の個性性を重視した「6分間歩行」測定時の様子



- ③「靴」の調査・・・日常、農作業時に着用している靴

寺岡 伸悟

熊本大学文学部専任講師、甲南女子大学人間科学部助教授(社会学)などを経て、2005年から国立大学法人奈良女子大学文学部准教授。京都大学博士(文学)。

専門は地域社会学・文化社会学。農山村を主たるフィールドに、地域社会文化の発掘やその資源化、さらにそれらを用いた産業振興・地域づくりのための調査・研究を行っている。そのため食と農、地域と情報化(メディア)、さらに観光学の分野にも関心を広げている。

